

育苗箱施用剤ジクロベンチアゾクス剤および プロベナゾール16%剤のイネいもち病防除効果

ジクロベンチアゾクス剤の特徴

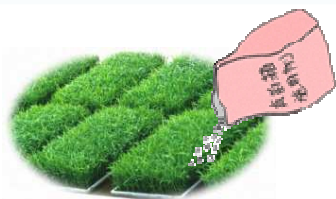
○葉いもちに対して**高い防除効果**
(詳しくは裏面へ)

○新規の**抵抗性誘導剤**

○播種時覆土前処理が可能

[薬剤例(2024年1月31日 現在)]

- ・ブーンアレス箱粒剤
- ・ブーンゼクテラ箱粒剤
- ・レシードプラス箱粒剤 等



プロベナゾール16%剤の特徴

○葉いもちに対して**高い防除効果**
(詳しくは裏面へ)

○既存の**抵抗性誘導剤**であるが
これまでの製剤と**成分量が異なる**

※これまでの製剤の例()内はプロベナゾールの成分量

- ・Dr.オリゼリディア箱粒剤(24%)
- ・ファーストオリゼフェルテラ粒剤(20%)
- ・ビルダーフェルテラチェス粒剤(10%)

[薬剤例(2024年1月31日 現在)]

- ・Cs.オリゼリディアEV箱粒剤
- ・Cs.オリゼリディア箱粒剤 等

イネで**最も**
恐ろしい病気!

イネいもち病



【葉いもちの病斑】



【いもち病のずり込み症状】
(収量に大きく影響)

農薬の使用は処理方法・処理量を守って、安全に！！

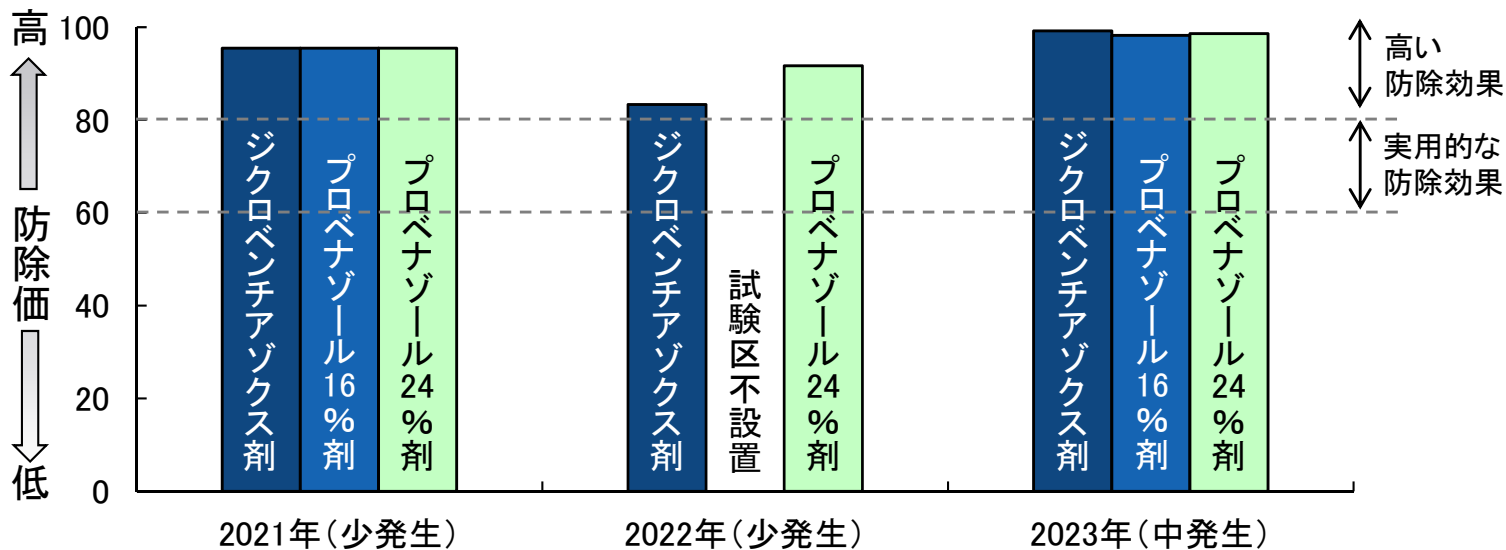


図1. ジクロベンチアゾクス剤およびプロベナゾール16%剤のイネいもち病(葉いもち)防除効果(平坦地)

※平坦地の試験概要

[試験場所]鳥取市橋本(鳥取県農業試験場)

[供試薬剤]ジクロベンチアゾクス剤:ブーンゼクテラ箱粒剤、プロベナゾール16%剤:Cs.オリゼリディアEV箱粒剤、プロベナゾール24%剤:Dr.オリゼリディア箱粒剤

[処理方法]育苗箱施用(50g/箱)

[品種]‘きぬむすめ’

[移植]5月19~24日(稚苗機械移植、15~20箱/10a)

[発病調査]葉いもち発生盛期(7月21~29日、移植63~66日後)に病斑面積率を調査

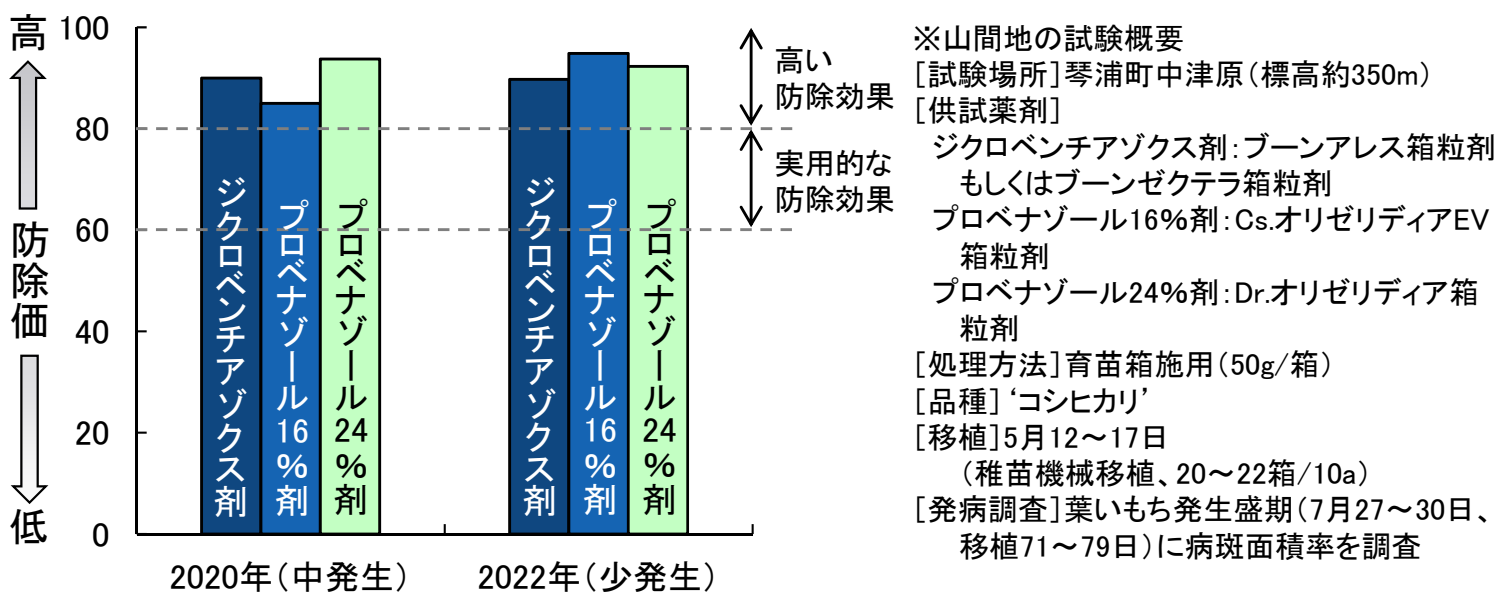


図2. ジクロベンチアゾクス剤およびプロベナゾール16%剤のイネいもち病(葉いもち)防除効果(山間地)

利用上の留意点

- ・本情報の対象は、鳥取県内の水田です
- ・葉いもちの発生状況が中発生以下の条件で検討した結果です
- ・薬剤によって対象病害虫が異なるため、栽培地域に適した薬剤を選択するとともに、必要に応じて追加防除を行いましょう
- ・穂いもちについては、既存の育苗箱施用剤と同様に本田散布剤等による予防防除を行う必要があります
- ・薬剤は規定量を均一に散布しましょう(薬剤の防除効果に影響します)
- ・極端な疎植は避けましょう(植付箱数が少ない場合、薬剤の防除効果に影響を及ぼします)

(問い合わせ先) 鳥取県農業試験場 環境研究室 TEL:0857-53-0721

※本書から転載複製する場合には必ず農業試験場の許可を受けて下さい